

アオギリに平和への思いを込めて

社民党坂戸市議会議員 武井 誠

坂戸市内の全中学校、坂戸小学校、三芳野小学校には、非核・平和の象徴として「被爆アオギリ2世」が植えられ、市教育委員会によって、その由来についての表示板が設置されています。これからも市の事業として、順次すべての小学校への植樹が進められていく予定です。これまで20余年間の、私たちの取り組みを報告します。

県内の労働組合や民主団体、個人によって構成される埼玉県平和運動センターという組織があります。23年前、鶴ヶ島市の中学校教員だった私は、教職員組合の一員として、このセンターの企画「ヒロシマに学ぶ埼玉子ども代表団」結成と派遣に参画しました。そして1994年（被爆49周年）の第1回から第13回まで、県内の小中学生10数人とともに、8月4日から6日のヒロシマを訪問してきました。入西小、若宮中に通う私の子どもたちやその友だちも、何人か参加をしました。（子ども代表団の派遣は現在も続いています。）

8月6日の平和記念式典の前日、子どもたちは、平和公園でフィールドワークを行います。平和資料館の横に移植された被爆アオギリの前で「アオギリの語り部」と言われる故沼田鈴子さんから、直接お話を聴けたこともありました。被爆により左脚を失い、婚約者も戦死し、絶望に陥ったところを、被爆アオギリの新芽を見て生きる希望を取りもどし、被爆体験証言活動と平和運動に心血を注いだ沼田さんのお話は、子どもたちの心に深く刻み込まれました。「私は、戦争をなくすために世界に友だちをたくさん作りたい。友だちの上にこんな残酷な原爆を落とそうなどとは思えなくなる。」こんな子どもたちの感想に、今度は大人が学ぶ、そういう取組を13年間続けました。

やがて、現地から被爆アオギリの種子をいただいて帰り「被爆アオギリ2世」を全国で育てようという運動が始まりました。これに賛同する「原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会」のメンバーを中心とする市民有志により、子どもたちの「おみやげ」の種子を育て、苗木を中学校に植樹する取り組みを行い、中学校生徒会のみなさんと共に2001年に坂戸中学校、住吉中学校、その後10年をかけて全中学校に「被爆アオギリ2世」の苗をお届けすることができました。

2年前からは、坂戸市長も会員である平和首長会議から苗を入手し、坂戸市の平和事業として引き継がれることとなり、現在坂戸小、三芳野小に植樹されています。

外伝(?!)ですが、ある年、若宮中学校のアオギリが、心無い人によって折られてしまいました。予備のアオギリを若宮中に植え直し、折れた苗木を私(武井)の自宅に移植したところ、素晴らしい生命力で再び元気に育ちはじめたのです。2012年5月に若宮中近くの北大塚公園に移植しました。下写真は、公園で地域の小学生たちと行っている夏休みの「ラジオ体操」、その最終日に「被爆アオギリ2世」下で、沼田鈴子さんから学んだお話と平和の歌をギター弾き語りで披露する私です。去年は「青い空は」、今年は「ヒロシマの有る国で」を歌いました。

「戦争は絶対悪である」「核と人類は共存できない」。今こそ、アオギリに託した沼田さんの思いを、子どもたちに伝えていかなければならないと思っています。

私たちの取組については、原爆絵画展坂戸鶴ヶ島地区実行委員会のホームページからご覧いただけます。

アドレスはこちらです <http://www.sakado-gr.org/kaigaten/>。

